

内丸講座

10月
29日(日)
午後1:30

六ヶ所村 ～今の日本を 下北から診る～



参加費 無料

主催・場所 日本キリスト教団 内丸教会

盛岡市中央通1-6-44, 問合せ先 019-622-6688 (バス停 中央通1丁目/中央郵便局前, 徒歩2分)



福島第1原発爆発から6年半。原子力なしで電力をまかなえることが明らかになったのに、原発再稼働が当然の政府方針となり、エネルギー基本計画案では「重要なベースロード電源」に原子力発電が掲げられています。けれども原発が動き続ける限り、**10万年!**以上も隔離しなければならない廃棄物は増え続け、未来を脅かします。なのに政府はエネルギー政策から核燃料サイクルによる原発継続を外そうとしません。**経済的に考えれば疾うに破綻**している核燃料サイクルに、なぜ政府は固執するのでしょうか？ 計画から40年以上過ぎ、**技術的無理**も指摘されているのに、なぜ政府は頑なに固執するのでしょうか？

計画当初からこの計画の問題性と危険性を指摘し、反対運動に身を挺してきた岩田雅一氏を迎え、六ヶ所再処理工場計画の歴史と現状を、政治的・経済的背景もまじえて語っていただきます。

私たちの国土と自然を安全な姿で未来世代に手渡していくことが、今に生きる私たちの責務ではないでしょうか。心して耳を傾け、共に考え、一緒に行動していく契機としていただければ幸いです。

講師 岩田雅一 (写真家・日本キリスト教団八戸北伝道所牧師)

1942 大阪生まれ。1971 日本キリスト教団牧師となり、1982 八戸の教会に赴任。1984 核燃料サイクル基地六ヶ所村立地案に接し、「死の灰を拒否する会」を結成。現地六ヶ所村で「闘う民衆」に出会い、以来民衆と共に身を挺して闘い、今日に至る。1993 再処理工場建築着工の年、教会内で紛争が発生。1995 八戸北伝道所を開設、「原発・核」を宣教課題に掲げ、開拓教会の牧師として在り続ける。90年代の有事法制化を通し、「原子力と軍事」の一体性、「日本の大国化」志向を確信。2011以降全国から招かれて講演を続ける。／著書『岐路に立つ-六ヶ所村の人々と共に』(1990) 写真集『寺下力三郎とわれら-六ヶ所村の闘い』(1999) 『カオス 抑圧の最前線～六ヶ所から』(2012)他。